

## 再 評 価 調 書

I 事業概要						
事業名	道路事業					
地区名	主要地方道飯田富山佐久間線 <small>いいたとみやまさくま</small>					
事業箇所	北設楽郡豊根村富山地内 <small>とみやま</small>					
事業のあらまし	<p>主要地方道飯田富山佐久間線は、長野県飯田市を起点とし旧富山村を經由し、静岡県浜松市（旧佐久間町）に至る延長 92km の路線であり、豊根村役場と富山地区を結び、山間部の暮らしを支える重要な路線である。</p> <p>当該事業区間は線形が悪く、狭隘の区間で車両のすれ違いが困難であることから、円滑な交通の妨げとなっている。また、路線の一部区間が第二次緊急輸送路として位置づけられ、防災上重要な路線でもある。</p> <p>このため、自動車すれ違い困難区間における自動車の安全性・走行性向上及び、緊急輸送道路ネットワークの強化を主な目的として、主要地方道飯田富山佐久間線の現道拡幅を実施するものである。</p>					
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>(1) 山間・離島対策（自動車すれ違い困難区間における自動車の安全性・走行性向上）</p> <p>(2) 地震・津波対策（緊急輸送道路ネットワークの強化）</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>					
計画変更の推移		事業採択時 (2006 年度)	再評価時（1 回目） (2016 年度)	再評価時（2 回目） (2021 年度)	変動要因の分析	
	事業期間	2006 年度 ～2022 年度	2006 年度 ～2022 年度	2006 年度 ～2026 年度	地元調整による事業期間延長	
	事業費（億円）	10.5	10.5	14.0	地質調査による、橋梁部の構造変更における事業費増（工事費：0.0 億円→2.5 億円）	
	経費内訳	工事費	9.7	9.7		12.2
		用補費	0.1	0.1		0.1
その他	0.7	0.7	1.7	（その他：0.0 億円→1.0 億円）		
事業内容	現道拡幅 延長 0.9km 幅員 5m 1 車線	現道拡幅 延長 0.9km 幅員 5m 1 車線	現道拡幅 延長 0.9km 幅員 5m 1 車線			
II 評価						
①事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事業採択時の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現道は線形が悪く、狭隘の区間で車両のすれ違いが困難であることから、円滑な交通の妨げとなっている。</li> <li>・ 当該路線は豊根村役場と豊根村役場富山支所を結ぶ地域の生活道路として機能しており必要性は高い状況である。</li> <li>・ 第二次緊急輸送道路に位置付けられており、当該工区の拡幅により緊急輸送道路ネットワークが強化される。</li> </ul> <p>【再評価時の状況】</p> <p>(1) 山間や離島などの暮らしを支える基盤整備</p>				

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・線形が悪く、狭隘の区間で車両のすれ違いが困難であることから、円滑な交通の妨げとなっているため、依然として必要性は高い状況である。</li> <li>・2015年3月に富山小中学校が廃校となり、統合された小中学校へのスクールバスの経路となっていることから、事業の必要性は高い。</li> </ul> <p>(2) 地震・津波対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次緊急輸送道路に位置付けられており、当該工区の拡幅により緊急輸送道路ネットワークが強化されることから、必要性は依然として高い。</li> </ul> <p>【再評価時(2回目)の状況】</p> <p>(1) 山間・離島対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合された小中学校へのスクールバスの経路となっているものの、線形が悪く、狭隘の区間で車両のすれ違いが困難であることから、円滑な交通の妨げとなっているため、依然として必要性は高い状況である。</li> </ul> <p>(2) 地震・津波対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次緊急輸送道路に位置付けられており、当該工区の拡幅により緊急輸送道路ネットワークが強化されることから、必要性は依然として高い。</li> </ul> <p>【変動要因の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・依然として安全・円滑な交通に支障をきたしており、緊急輸送道路ネットワークの強化のため、引き続き整備の必要性がある。</li> </ul>																																																																																																								
	判定	<p><b>B</b></p> <p>A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。          B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。          C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>【理由】</p> <p>線形が悪く狭隘な区間で車両のすれ違いが困難であることから、事業の必要性は依然として高い状況にあるため。</p>																																																																																																								
②事業の進捗状況及び見込み	1) 進捗状況	<p>【事業計画及び実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>2006~2016</th> <th>2016~2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> <th>2024</th> <th>2025</th> <th>2026</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">工種区分</td> <td>調査・設計</td> <td>←→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>用地補償</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事</td> <td></td> <td>←→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・土工</td> <td></td> <td>←→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・橋梁工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>←→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・舗装工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>←→</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">事業費(億円)</td> <td>前回計画</td> <td>6.0</td> <td>3.0</td> <td colspan="3">1.5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>6.0</td> <td>4.5</td> <td colspan="6"></td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td>今回計画</td> <td>6.0</td> <td>4.5</td> <td colspan="4">3.0</td> <td></td> <td>0.5</td> <td>14.0</td> </tr> </tbody> </table>			2006~2016	2016~2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	合計	工種区分	調査・設計	←→									用地補償										工事		←→								・土工		←→								・橋梁工					←→						・舗装工								←→		事業費(億円)	前回計画	6.0	3.0	1.5						10.5	実績	6.0	4.5							10.5	今回計画	6.0	4.5	3.0					0.5	14.0
		2006~2016	2016~2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	合計																																																																																																
工種区分	調査・設計	←→																																																																																																								
	用地補償																																																																																																									
	工事		←→																																																																																																							
	・土工		←→																																																																																																							
	・橋梁工					←→																																																																																																				
	・舗装工								←→																																																																																																	
事業費(億円)	前回計画	6.0	3.0	1.5						10.5																																																																																																
	実績	6.0	4.5							10.5																																																																																																
	今回計画	6.0	4.5	3.0					0.5	14.0																																																																																																

【進捗率】

	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況	
	計画 【①】	実績 【②】	達成率(%) 【②÷①】	計画 【③】	進捗率(%) 【②÷③】
延長(km)	0.9	0.0	0%	0.9	0%
事業費(億円)	9.0	10.5	117%	14.0	75%
工事費	9.7	9.3	96%	12.2	76%
用補費	0.1	0.1	100%	0.1	100%
その他	0.7	1.1	157%	1.7	65%

※用地進捗率(面積ベース)は、約100%

2) 未着手  
又は長期化の理由  
・地元と調整した結果、迂回路がないため、地元交通を確保しながらの施工方法に変更することになった。その結果、施工効率が低下し、事業が長期化している。

3) 今後の事業進捗の見込み  
【阻害要因】  
・地元自治体より早期整備が要望されており、大きな阻害要因はない。  
【今後の見込み】  
・2026年度までに整備が完了する予定である。

判定

B

- A：事業は順調であり、計画通り確実な完成が見込まれる。  
B：次のいずれか(該当する項目に「○印」を付ける)  
・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。  
○これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。  
・これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。  
C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。

【理由】

・事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因はなく2026年度までの整備完了が見込まれるため。

III 対応方針(案)

継続

中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。  
継続：上記以外のもの。

IV 再評価実施の有無と主な評価内容

■対象(事業完了後5年目) □対象外

【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】

—

【主な評価内容】

・交通の安全性・円滑性の改善状況